

登別市史編さんだより

【ニュース】新登別市史編さん方針を策定しました

市では、登別市史編さん委員会からの答申を受けて、平成29年3月29日に新しい市史の編さん方針を策定しました。新しい市史は、この編さん方針に基づいて編さんしていきます。

●編さん方針の概要

- ・新しい市史の名称は、『新登別市史』とする。
- ・市史の編さんにあたっては、登別の歴史は、国、北海道あるいは他の市町村との関わりの中で育まれてきたことから国や北海道の中における登別市など行政区分にとらわれすぎない広域的な視点をもって取り組んでいくこと。
- ・環境問題や民族問題に対する意識の変化などにも配慮すること。
- ・地域ごとの歴史についても調査を進め、市史に記録すること。

地域の昔を語る – 市民による地域の昔を語る座談会 –

市では、地域の歴史をまとめるため、平成28年度から各地域で座談会を行っており、各地区の座談会では次のような話がありました。これにまつわる話などがありましたら、ぜひ市史編さんグループまでお寄せください。

- ・砂浜で野球をよくした。海まで飛べばホームランだった。（昭和30年代・幌別町）
- ・艦砲射撃の爆弾が登別駅付近にあった自宅物置に落ちた。（昭和18年・登別東町）
- ・冬にフンベ山でそり遊びをした。（昭和20年代・登別東町）
- ・昭和40年に道南で初めてエスカレーターが設置されたデパートがオープンし、物珍しさから何度も乗りに行った。（昭和40年代・中央町）
- ・富岸神社のお祭りはもともと8月16日、17日と決まっていたが、会社勤めの人が増えたので土日に行くようになった。（富岸町）
- ・幌別駅からは、トロッコ線のほかに幌別川から採取した砂利を運ぶための線路があった。幌別川の砂利採取場は人力で掘っていたが、かなりの深さになっていた。（昭和20年代・片倉町）
- ・新日鉄（当時）のお祭りの日に輪西神社から神輿がトラックで運ばれてきて、社宅街を練り歩いた。（昭和2～30年代・富士町）
- ・水揚げした魚は、馬車で室蘭の市場まで運んでいた。（昭和10年代・鷺別町）

市民の方から提供いただいた写真などを紹介

●一宮神社



一宮神社本殿(撮影年月不詳)

「一宮神社」は、兵庫県淡路町（現・兵庫県淡路市）から川上地区に移住してきた方が開拓の成功と安全を祈願するため、明治26（1893）年2月に故郷の一宮・伊弉諾（いざなぎ）神宮から戴いた御神札を現在の川上公園南西側の尾根の中腹に祀ったのが始まりで、昭和34（1959）年に川上公園野球場を見下ろす丘に移設されました。

氏子からは「一宮（いっく）さん」と親しまれ、例祭は、伊弉諾神宮の例祭と同じ毎年4月22日に奥川上（川上ダムが建設された地区）、東川上（現在の片倉町）、西川上（現在の桜木町）の3地区により持ち回りで行われていました。しかし、地域で大事にされてきた「一宮さん」も氏子の減少などにより平成16（2004）年5月に111年の歴史の幕を閉じます。現在、「一宮さん」があった場所の近くには「ダム龍神」の石碑が建っており、地域の安全を見守っています。

氏子からは「一宮（いっく）さん」と親

●虎舞（情報を求めています）



登別の虎舞と思われる絵(日野謙一家資料)

「虎舞」は、「虎は千里行って千里帰る」とのことわざや「雲は龍に従い、風は虎に従う」との中国の古典から、漁に出た漁船の無事の帰還や火災予防の願いを込めて、虎をかたどった張子をかぶり虎柄の衣装をまとって踊られるもので、現在は三陸海岸の沿岸部に郷土芸能として多く見られます。

市内でも、戦前に登別地区で行われていたとの情報がありますが、その詳細は不明です。

市内で行われた「虎舞」についてご存知の方、

身内の方が踊っていたなど情報をお持ちの方は、市史編さんグループまで情報をお寄せください。

◎資料に関する情報提供のお願い

市史編さんグループでは、現在、昔の登別を知る手掛かりとなる資料についての情報を集めています。

お祭りやまちの様子を写した写真や映像、当時の日記など、お心あたりのある方はご連絡ください。

(連絡先) 登別市総務部市史編さんグループ 千葉・更科・玉田・小坂

電話：0143-50-6039 FAX：0143-85-1108